

進路通信



令和6年10月22日

雲林科学技術大学への留学から TSMC へ

今月初旬に、台湾の国立雲林科学技術大学(YunTech)の教授4名が本校へ来校し、YunTechでの日本人学生対象半導体プログラムの説明がありました。このプログラムは世界最大の半導体製造企業 TSMC と YunTech が協力して実施するものであり、YunTech での4年間の授業料が免除となり、さらに給付型奨学金として毎月約47,000円を受け取ることができるものです。4年間 YunTech の「機械工学科」か「工業工学及びマネジメント学科」で学び、卒業後には面接選考を受け、合格すれば TSMC へ就職となります。なお、TSMC は熊本にも工場を持っており、国内の一部の高校に対して今回のプログラムの話があったそうです。初年度（現3年生対象）は日本の高校生30名を募集するそうですが、希望者が多いようなら定員の拡大も検討していくとのことでした。進路資料室前にこのプログラムのパンフレットを置きますので、興味のある生徒はご自由にお取りください。



共通テスト出願完了

共通テスト受験希望者の志願票を9月の末に発送し、先日無事に受領となりました。新教育課程での最初の共通テストを、本校からは約170名の生徒が受験します。総合型や学校推薦型選抜にチャレンジする人もいますが、合格が保証されたわけではありません。一般入試や共通テストを見据えて勉強してください。なお、共通テストを受験する生徒の方が一般入試での第一志望合格率が高いというデータがあります。そして何より、現役生は最後まで伸びます。ここからの伸びが大きいんです。最後まで頑張りましょう。

広く全国を見て進路選択をしよう

下の表は代々木ゼミナールから提供していただいた、国公立大学の地区別志願状況の変化を表したデータです。一昨年度から昨年度の志願者数変化割合を表した指数は北関東が最も高くなっており、志願倍率でも北関東が日本一高かったことがわかります。しかし、少し範囲を広げて東北や北陸中部を見ると倍率がだいぶ下がるのが確認できるのではないのでしょうか。地元での進学には当然多くのメリットがあります。しかし県外で学ぶことにもまた異なった多くのメリットがあります。何を優先するかは人それぞれです。様々な要素を比較し、進路検討をしてみましょう。

表1 国公立大一般選抜志願状況（地区別）

	2023年			2024年			増減数	指数
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		
北海道	5,447	23,338	4.28	5,567	22,497	4.04	-841	96.4
東北	7,681	29,874	3.89	7,672	30,030	3.91	+156	100.5
北関東	5,490	24,702	4.50	5,470	25,674	4.69	+972	103.9
首都圏	16,027	74,699	4.66	15,973	74,249	4.65	-450	99.4
関東計	21,517	99,401	4.62	21,443	99,923	4.66	+522	100.5
北陸中部	10,225	42,775	4.18	10,190	41,583	4.08	-1,192	97.2
東海・三重	9,274	41,145	4.44	9,272	40,557	4.37	-588	98.6
近畿	16,650	71,937	4.32	16,643	72,695	4.37	+758	101.1
中国	9,290	41,538	4.47	9,380	40,874	4.36	-664	98.4
四国	4,479	16,939	3.78	4,539	17,522	3.86	+583	103.4
九州沖縄	14,105	56,195	3.98	14,107	57,569	4.08	+1,374	102.4
総計	98,668	423,142	4.29	98,813	423,250	4.28	+108	100.0

(YOZEMI Educational Laboratory)

1, 2年 11月ベネッセ総合学力テスト（11月2日）

11月2日（土）に1, 2年生はベネッセの総合学力テストを受験します。7月模試の結果を振り返り、「今回は特に何を頑張るか」という目標を設定して対策をしましょう。

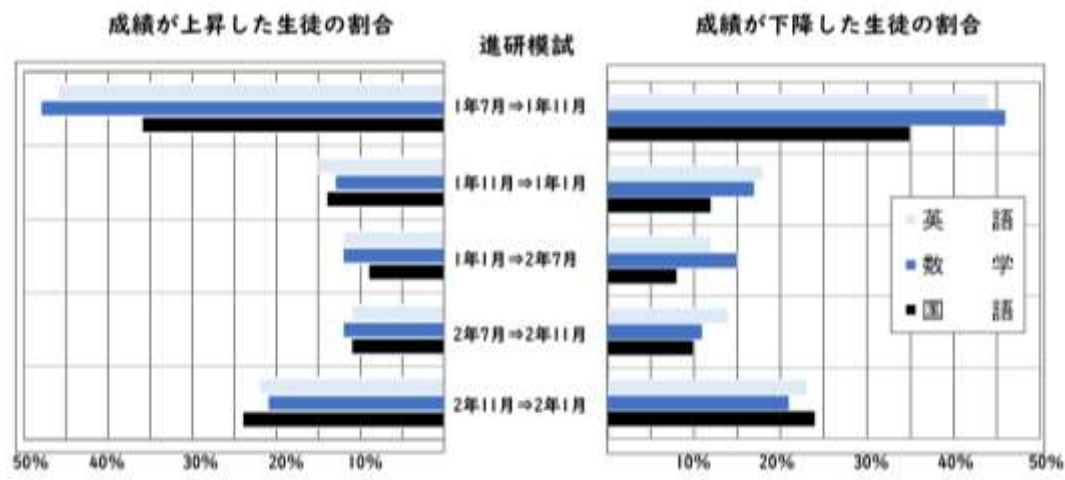


図1 進研模試各回間の成績上昇者・下降者の割合（ベネッセ 2024）

上の図にあるとおり、1年生の11月模試では成績の上下が非常に激しくなっています。ここで成績を上げられるよう対策をしましょう。